

校長室だより

学校教育目標「学びを生かす子供」

八代市立龍峯小学校

校長 村嶋 博史



R3,11,26

NO.27

校長講話「失敗した後が大事」

11月18日（木）の始業前の時間に、体育館にて全校集会を行いました。今回は、校長講話ということで、私が「失敗した後が大事」という内容の話をしました。その概要は次のとおりです。

誰でも失敗することはあります。

失敗やトラブルが起こったときこそ、短い時間の中で知恵を絞っていろいろなアイデアを出し、それを次々に実行していかないと、活動がそこで止まってしまいます。

「今度はこうやってみよう」「この次はこれを使ってみよう」と考えて、実際にそれを試してみると、失敗を挽回することもできるし、そこから色々なことを学べます。

子供たちは、真剣に聞いていて、話の後の感想交流では、多くの子供が手を挙げ、「失敗したら反省し、挽回するように頑張りたい」「失敗してもくよくよせず次に繋げたい」などと述べていました。

第4回・第5回研究授業を行いました



本校では、「何を教えるか」ではなく、「どのように学ばせるか」を重視した授業改善、いわゆる子供が主語となる授業実践について研究を重ねています。

その研究の深化のために、11月18日（木）の5校時に、八代市教育委員会から黒木指導主事をお招きし、第4学年の算数科の研究授業（第4回）を行いました。また、11月24日（水）の1校時には、ひまわり学級の自立活動の研究授業（第5回）を行いました。そして、両日とも放課後に授業研究会を行い、次の研究の視点に沿って検証しました。

- ・子供たちと単元のゴールの姿や学習過程を共有する「単元デザイン」
- ・子供たちが「なぜ」「おそらく」「知りたい」「やりたい」と思うような教材・教具や言葉かけの工夫、いわゆる魅力的な課題の設定としての「導入の工夫」
- ・子供たちが主体となって活躍する場面の設定（教師の簡潔・明瞭な指示や説明、学びをつなぐ積極的なコーディネートが必要）としての「展開の工夫」
- ・子供たちが「何をどのように学んだか」「何ができるようになったか」を自覚するような振り返りの工夫、いわゆる客観的な認知の促進としての「終末の工夫」
- ・子供たちの主体的・対話的で深い学びを支えるICTの有効活用としての「学びの深まり」

今後も子供たちの学習意欲を掻き立てるように授業改善に努めていきます。

